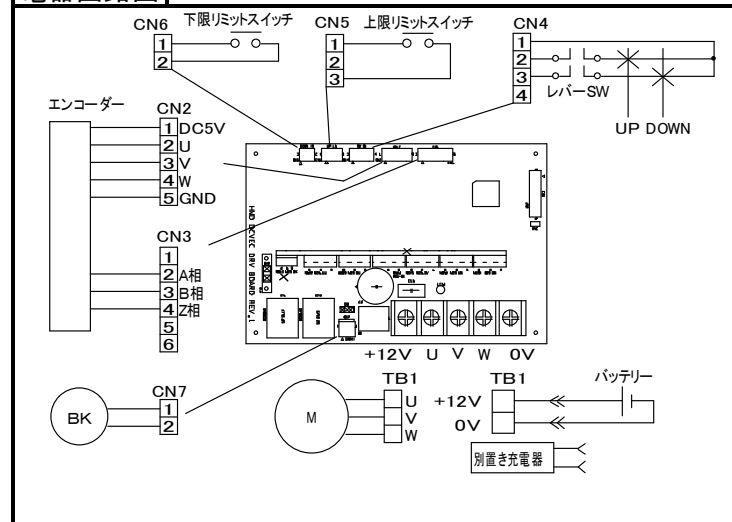


7 仕様

型式	許容荷重 (kg)	フォーク、テーブル寸法 (mm)		上昇時間 負荷 無/全 (秒)	バッテリー	自重 (kg)
		幅×長さ	高さ MIN-MAX			
BEN-P150L-9	150	60×600	75-900	14/14	PE12V7.2	70
BEN-P150LF-9	150	60×600	75-900	14/14	PE12V7.2	70
BEN-P150L-9T	150	480×620	90-915	14/14	PE12V7.2	82
BEN-P150LF-9T	150	480×620	90-915	14/14	PE12V7.2	82
BEN-P150L-9K	150	500×630	115-940	14/14	PE12V7.2	87
BEN-P150LF-9K	150	500×630	115-940	14/14	PE12V7.2	87

電器回路図



品質保証書

ご購入日より1年以内に正常な状態で使用して故障し、弊社がその欠陥を認めた場合には無償修理致します。

ご購入年月日	年 月 日
型番	BEN-P150L -
お客様	ご住所
販売店	お名前 様
	住所
	店名
	TEL

< 無料修理規定 >

- 取扱説明書に従った正常な使用状態で故障した場合には、ご購入販売店が無料修理致します。
- 保証期間内に故障して無料修理をお受けになる場合には、ご購入の販売店にご依頼ください。なお、離島及び遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
- ご贈答品等で、ご購入販売店に修理依頼ができない場合には、本書に記載されている本社もしくは各営業所、サービスセンターにお問い合わせください。
- 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
 - (イ) 使用上の誤り、及び不当な修理や改造による故障、及び損傷。
 - (ロ) 組立・取り付け不備による故障、及び損傷。
 - (ハ) お買い上げ後の場所移動、落下等による故障、及び損傷。
 - (ニ) 火災・地震・水害・落雷その他天災地変・公害による故障及び損傷。
 - (ホ) 本書の提示がない場合。
5. 日本国以外で使用された場合、すべてに責任を負えません。

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので保証期間経過後の修理についてはご不明な場合は、ご購入販売店または本書に記載の本社もしくは各営業所、サービスセンターにお問い合わせください。

総発売元 **トラスコ中山株式会社**
 〒578-8501 大阪府東大阪市新庄西50
 E-mail: techno.center@trusco.co.jp
 お客様技術相談窓口 0120-509-849
 テクノセンター



取扱説明書

No. 2 5 0 4 2 5

LEVELER LIFTER

レベラーリフター

BEN-P150L

この度は、レベラーリフターをお買い上げ頂きましてありがとうございました。本機を安全に、能率よくご使用頂くために、必ずこの取扱説明書を最後までお読みください。



注意

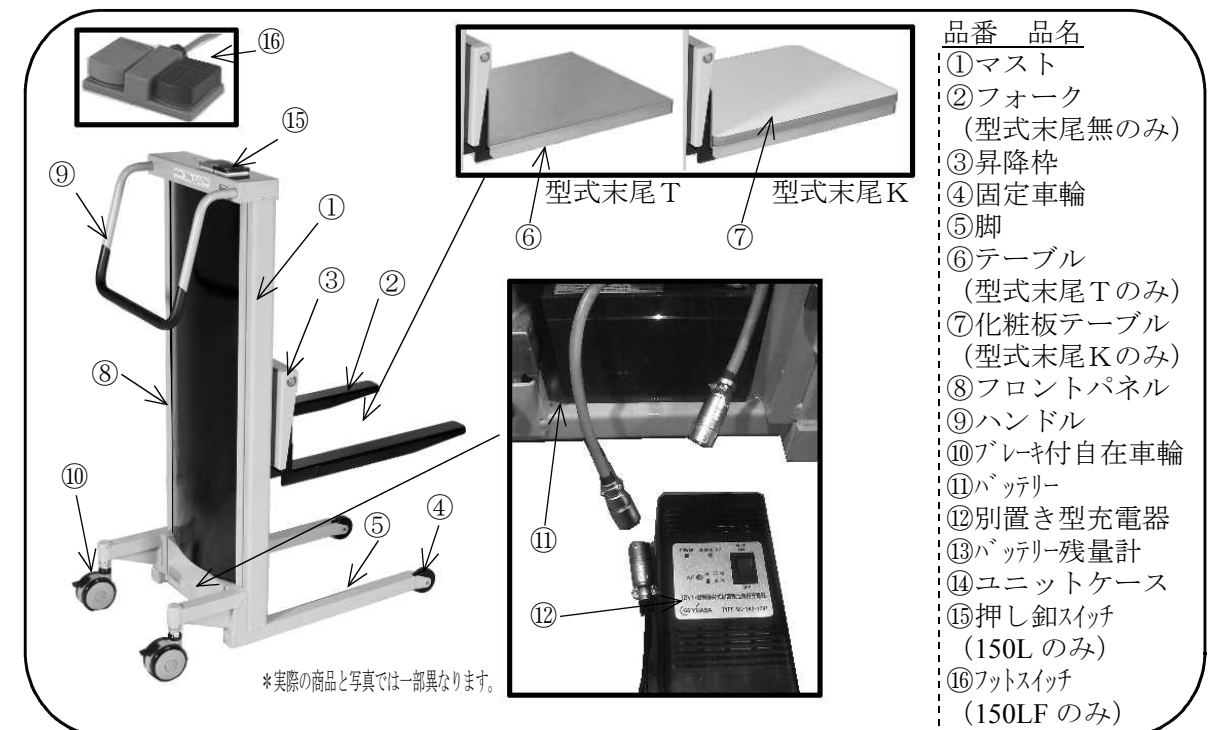
- 取扱説明書は大切に保管し、よく活用してください。
- 取扱説明書は最終ユーザーに必ずお渡しください。
- 取扱説明書や警告ラベルを破損・紛失した場合には、ただちに購入店に注文してください。
- 取扱説明書で使用方法に不明な点や疑問点がある場合は、購入店にお問い合わせください。

1 運送上の注意

- 車から下ろす時は、傾けたり倒したりしないでください。バッテリーを搭載していますので傾けるとバッテリー液が漏れるおそれがあります。バッテリー液は希硫酸です。皮膚や身体に付着するとやけどの原因となることがあります。
- 車で搬送するときは風圧でフロントパネルが破損するおそれがありますのでカバーで覆ってください。



2 各部の名称



3 安全上の注意事項

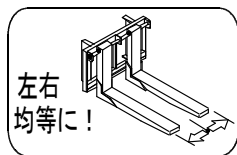
- 平坦で堅固な舗装路面で使用してください。
- 爆発性雰囲気中では使用しないでください。
- 許容荷重以上は載せないでください。許容荷重はロードセンターに依って決まります。
- 許容荷重内でも、できるだけフォークの根本側に荷重がかかるように積載してください。
- 屋内専用です屋外では使わないでください。
- フォークの下に立ち入らない。乗らない。
- 傾斜地では使わないでください。転倒事故のおそれがあります。
- 積み荷は片荷や集中荷重にならないよう注意してください。
- リフターの可動、昇降部分は危険です。絶対に手足を入れないでください。メンテナンス時には、挟まれないよう二重三重の安全対策を施して下さい。
- 充電中は絶対にリフターを昇降させないでください。充電器が破損します。
- 駐車時は必ず車輪のブレーキを掛けてください。
- こどもにはさわらせないでください。
- 溶接作業を行う場合には基板等の電気部品を全て外してください。その際必ず電源（バッテリー）線から外してください。
- 保守、点検は専門知識と技能を持った人が実施してください。けが、火災、装置破損のおそれがあります。
- 昇降板を上げたまま、モーターを外さないでください。油圧リフターと違い、外した瞬間に落下し、人身事故の恐れがあります。
- 異常を感じたら直ちにお買い求めの販売店にご連絡ください。



注意
許容荷重はロードセンターに依って決まります。本体に貼ってある荷重曲線図を参照ください。

4 操作方法

- 押し釦（フット）スイッチの”UP”を押すと上昇し、”DOWN”押すと下降します。リフトが上限・下限に達したら速やかにスイッチを放してください。
- フォークはスライド式です。通常はいっぱいまで広げ最大幅で使用してください。縮めるときは片荷にならぬよう左右均等にしてください。



注意
1: 上昇端・下降端のリミットスイッチは出荷時に限界値で設定してあります。調整する場合は限界値を越えないように注意してください。限界値を越えますと破損の原因になります。
2: 昇降スタート時、停止時に電磁ブレーキの開閉音(カッ)がしますが異常ではありません。
3: 上限・下限に達したら速やかにスイッチを離してください。アラームの原因になります

- 過電流検知
上昇・下降共に過電流を検知すると昇降を停止します。反対側のスイッチを入れると解除されますが、必ず、過電流となった原因を確認し、対策を行ってから、ご使用になってください。
過電流をたびたび発生させますと、基板等の焼損につながります。

5 充電の方法

注意 | 付属の充電器の取説も良くお読みください。

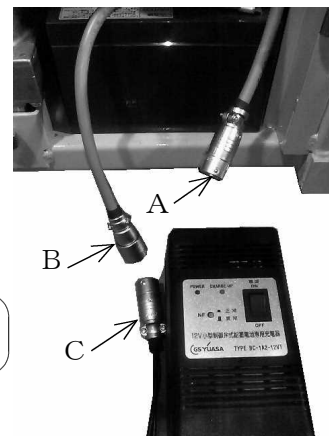
◆ バッテリーの容量

バッテリーは深く放電するほど寿命は短くなります。75%放電深さで寿命サイクル数は約500サイクルです。新品は容量の100%放電できますが、古くなるに従い放電量は少なくなります。また温度にも大きく影響を受けます。30℃で100%、0℃で80%、-15℃で60%と大幅に低下し寿命も短くなります。バッテリーの保守・管理には注意してください。

◆ バッテリーの充電

右の写真のコネクタはAが制御基板、Bがバッテリー、Cが充電器につながっています。

- 1, バッテリーケースを開け、コネクタAとBを外してください。
- 2, 充電器側のコネクタCとコネクタBをつないでください。
- 3, 充電器のコンセントを差し、電源スイッチを入れてください。
- 4, 充電終了後、コネクタBとCを外し、コネクタBをAにつないでください。



注意 | 充電中は絶対にリフターを昇降させないでください。充電器が破損します。

警告

- 1, 充電は屋内の風通しが良く、乾燥した直射日光の当たらない場所で、ケースの扉を全開にして行ってください。
- 2, 充電コード長さは2mです。無理に引き出さないでください。
- 3, バッテリーから水素ガスが発生します。絶対に火気を近づけたり短絡（ショート）させないでください。引火、爆発することがあります。充電中は操作しないでください。
- 4, バッテリー液（希硫酸）が目・皮膚・衣類に付かないように注意してください。失明や、やけどをすることがあります。誤って付着したときは直ちに多量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。
- 5, バッテリーの過放電はしないでください。使い過ぎてそのまま放置すると寿命は著しく低下します。バッテリーは使用しなくとも自己放電します。1週間に一回補充電してください。
- 6, バッテリーの液面は週1回点検し、不足している場合は精製水を6ヶ所の漕のUPPERレベルまで補水してください。



6 保守点検

点検は必ず無負荷の状態にし、安全に充分注意して行ってください。バッテリーの保守点検時には、必ず保護めがね・ゴム手袋などの保護具を着用してください。

日常点検	定期点検（稼働時から1ヶ月、3ヶ月及び1年毎）
<ul style="list-style-type: none"> ■ リフトの昇降動作に異常はないか。 ■ 周囲に傷害物はないか。 ■ 本体外観上に異常はないか。 ■ 異常音や異常発熱はないか。 ■ 車輪の回転に異常はないか。 ■ バッテリー残量計は緑色か。 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各接続部のボルト、ナット等の破損やゆるみはないか。 ■ 可動部に異常摩耗はないか。 ■ 溶接部の亀裂や破損はないか。 ■ 電気配線等に亀裂や破損はないか。 ■ ローラチェーンにグリースを塗布してください。 ■ バッテリーの液量は正常か。（毎週）

危険
● 制御ボックスの基板には、電源を切っても完全に放電（基板のLEDが消灯）するまでさわらないでください。感電のおそれがあります。
● 昇降板を上げたまま、モーターを外さないでください。油圧リフターとは違いますのでテーブルは即落下します。

※ドライシリンダーのギヤ部とボールねじ部には長寿命グリースを封入していますから、補給なしで長時間安心してご使用頂けますが、1年を目安にオーバーホールを実施して頂くか、ドライシリンダーを新品に取り替えてください。